

平成21年度FD・SDセミナー

荒川キャンパス管理部管理課庶務係

中澤 智恵子

平成21年度のFD・SDセミナーは、5月28日から29日までの2日間にわたり、八王子セミナーハウスで行われました。1日目は教員と職員合同のプログラムで、4つの講演が行われました。

最初の講演は、東京大学名誉教授の天野郁夫先生による「公立大学の目指すもの」でした。公立大学は、小規模大学が多く専門分野が偏っており、国立大学と私立大学の間で位置づけが見えにくいとのご指摘がありました。首都大学東京は、「大都市における人間社会の理想像の追求」という理念を掲げています。漠然と教育・研究活動を行うのではなく、大学としての明確な目的を持っていれば、国・公・私立や規模を問わず存在意義を示すことが可能であると思われました。また、これからの大学では、ただ知識を伝達するだけではなく、大学を卒業した後も持続的に自主的に学び続ける人を育てることが大切であることのご指摘もありました。多くの人が大学に進学するようになり、大学の役割が拡大してきていることがわかりました。

続いて、首都大学東京が目標とする教育と教育課程についての大橋隆哉先生の講演がありました。全学共通基礎科目は幅広い基礎力を養成するために設けられ、特に、全学共通基礎科目の中の「都市教養プログラム」は、専門以外の分野を学習することを奨励しているとのことでした。現代社会の複雑な様々な問題の解決を図るためには、細分化された学問領域の中にとどまらずに総合的に取り組む必要があり、文系・理系の枠を越えて思考できる学生を育成することは非常に重要であると考えられます。次に、全学共通科目のねらいについて保阪靖人先生による講演があり、教員数の増減に科目数が対応していない、教室が足りないなど現時点での全学共通科目の問題点についてご指摘がありました。

1日目の最後の講演は、岡昌之先生のこれまでの学生カウンセリング経験からの「今日の学生気質」でした。理解されないことに我慢がならない、幼少期に周りの人にほめてもらった思い出がない、味方でなければ敵であるなどという現在の学生の困難な心の内面をうかがうことができました。今後学生対応をする業務

について参考になりたいと思います。

2日目は、原島文雄学長の教職員協同による大学づくりについての講演から始まりました。学長のこれまでの研究生活についてのお話で興味深く聞きました。研究を進めていくためには人と人とのつながりが大切であったことがわかりました。次に串本剛先生による大学の教育改革についての講演があり、首都大学東京についての基本的情報を確認することができました。以上で教員と職員合同のプログラムは閉会し、続いてSDプログラムが2時間半にわたり部屋を移して行われました。

SDプログラムでは、「魅力ある大学を造り上げるために我々職員がなすべきことは何か―目指す職員像とそのために必要な能力開発―」というテーマでグループごとに討議し、各グループによる発表が行われました。

私たちのグループでは話し合いの結果、法人全体の現状と大学をとりまく状況を把握し、教育・研究・社会貢献という大学の3本柱を充実させて学生・教員・地域をつなげることのできる職員を目指したいという意見がまとまりました。そして、この目標の達成のためには、まず基本的な実務を習得し、さらに他部署を含めた法人全体の業務全般に関する幅広い知識を身につけることが必要との結論になりました。最後に内藤総務部長からの講話があり、FD・SDセミナーは終了しました。

今回のFD・SDセミナーでは興味深い講演をいくつも聞くことができ、また、他部署の方々とお話をする貴重な機会を得ることができました。今後は、「大都市における人間社会の理想像の追求」という首都大学東京の理念を常に念頭に置き、教育・研究活動を事務職員として底辺から支えることでこの理念の実現に少しでも寄与して行きたいと考えております。セミナーを企画・実行してくださった皆様に深く感謝申し上げます。